

コロナ禍での普及活動事例

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、私たち普及職員も感染防止対策を徹底し、工夫しながら普及活動を行っております。今回は、“信州版 新たな日常のすゝめ”を参考に編み出した当センターの普及活動の一部をご紹介します。

1. Zoom を活用した所内会議の実施

通常、21名の普及職員が一堂に会し実施している会議を「3密」を避けるためZoomを活用して実施しています。庁舎会議室にいるのは司会者含め数名で、業務用タブレットを持っている職員や在宅勤務の職員は別々の場所から会議に参加しています。Zoomに慣れていない職員が多く、当初は不安もありましたが、回を重ねるごとにしっかりと職員の意識統一を図ることができています。(写真1)



(写真1) Zoom を活用した所内会議の様子



(写真2) 動画を用いた研修会の様子

2. 動画を用いた研修会の実施

昨年実施した農村生活マイスターブロック研修会では感染症対策として、事前に現地活動を動画で撮影し各地区単位で鑑賞会を開催しました。一同に会することはできませんでしたが、動画を通してお互いの活動を共有することができました。(写真2)

3. リモートでの各種調査の実施

支援センターでは定期的に各品目に対する各種調査を行っています。今まで生育調査では職員数名でグループを組んで実施していましたが、車中等での「3密」を回避するために記録者は事務所に残り、調査者からリモートで報告された調査内容を事務所の職員がパソコンへ入力する、という体制で実施しています。(写真3)



(写真3) リモートでの各種調査の様子